

# 保育かながわ

発行所  
 横浜市中区山下町1番地  
 シルクセンタービル3階  
 325A号室  
 一般社団法人  
 神奈川県保育会  
 発行人  
 山本昇  
 題字  
 故内山岩太郎筆

## 第五十六回 神奈川県保育事業大会



令和五年四月二十五日(土) 平塚市中央公民館大ホールにて第五十六回神奈川県保育事業大会と保育会総会が行われました。主題『すべての子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして』と題して、平成二十七年より本格的にスタートした子ども子育て新制度より、神奈川県では子どもが『生きる力』、保護者等が『育てる力』、社会全体が『支える力』の「三つの力」を充実強化させ、地域全体で

子ども子育て家庭を応援する取り組みを進めている中、本大会では、制度改革を的確にとらえ、保育の社会的意義と役割、保育実践などについて議論を深め今後の保育の質の向上に寄与することを目的に開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、三年間は人数を制限しての開催だったため、今回は久しぶりに多くの会員の皆様が集まった開催となりました。また、今年度より保育士会を保育会の部会として統合を図っての初めての開催となり、当日は曇り空ではありましたが、会場は熱気にあふれていました。

相馬総務部会長の司会進行のもとに初めに宮田副理事長より開会のことばがあり、式典が始まりました。続いて、全員で『はなのおさなご』を斉唱し、児童憲章を富田保育



士部会会長(鎌倉市岩瀬保育園)が朗読を行いました。続いて、山本理事長より主催者挨拶がありました。神奈川県をはじめ県議会、市町村会、保育士養成校より多くのご来賓をお迎えすることができたことに感謝の言葉と永年勤続者の方々へ祝辞を述べられました。

次に、保育所で携わる職員今年度は総勢九十名が永年勤続表彰授与となりました。代表して、施設長・小出ゆみ子氏(秦野市なでしこ保育園)保育士・佐藤美佐子氏(平塚市吉沢保育園)調理員・吉田かおる氏(逗子市双葉保育園)が登壇され、保育会山本理事長より賞状と記念品を受け取りました。

続いて、神奈川県福祉みらい局長・橋本和也氏、神奈川県議会議員・薮田博昭氏、神奈川県市長会より、相模原市長 本村賢太郎氏、神奈川県児童福祉審議会より委員長・松田良昭様、神奈川県保育士養成施設協会より、小田原女子短期大学学長・吉田真理氏と多くのご来賓の方々よりご祝辞をいただき、四月から発足されたこども家庭庁への期待や今後の保育会への期待が述べられました。

最後に保育士会伊澤副理事長より閉会のことばが述べられ終了となりました。

その後、保育会総会となり、四月一日現在 会員数1437(保育会335 保育士部会1102)のうち保育会54 保育士部会93合計206の出席、委任状921合計1274をもって開催され、理事長挨拶、議事録署名人の選出の後、令和四年度の保育会事業報告及び決算について、令和四年度保育士部会事業報告及び決算について令和

四年度会計監査報告について承認されました。

# 研究発表



〈鎌倉市保育士会〉

今回はホールで2つの研究発表が行われました。一つ目は鎌倉市保育士会の「保育士の資質向上を図り、保育現場の魅力を発信する」実践報告を通して学びあう同僚性の構築を目指して」として、4グループによる発表がありました。1、幼児グループの研究では、気になっていること・日々の保育を振り返ることとで質の向上につながる環境を見直すことが大切だと分かりました。2、乳児グループ

の研究では子どもたちの様子をどうとらえ、どう進めていくのか、また、子どもたちが主体的に生活するために観察と考察を重ね、職員間の対話には環境図を作成し、それに基づいて進めていくことが必要である。3、「気になる子」のグループ研究では、保育士が「気になる子」ではなく、「気になる姿が見られる子」、それは困っている子の事だととらえ、まずは気持ちの切り替えができる環境を整えることが大切である。一人一人の特性を見極め、保護者との連携や職員間の情報共有・連携が何よりも大事である。4、「園庭遊び」グループでは保育環境の見直しによるスペースの有効活用や、「子どもの遊びの広がり」を大事にするためには、今の子どもに何が必要かを話し合い、環境づくりをする大切さに気付いた。各グループのまとめとして、情報交換や報告・共有を始め、日々の保育の振り返りと対話を進めていく中で仲間の存在の大きさを感じたり、受け止め方や感じ方の違いを知ることでお互いが高めあい、それがチーム力に変わっていき、結果的に「同僚性を高める」ことにつながっていくことを学ぶことができた。この発表

に対し、幹事さんから「保育士の質の向上には同僚性が必須だ」という事をもう少し前面に押し出した発表にした方がより良いものになるのでは」というアドバイスがありました。



〈小田原市保育士会〉

二つ目は小田原市保育士会から、保育の社会化に向けて「保育の営みをいかに社会に発信するか」「他機関への保育者のアプローチ」をテーマに、人と人との関わりや繋がりが希薄になり、保育園に入所していても保護者同士のかわりも少なくなった今日、保育者がどのように他機関と連携することで子育て家庭へ支援できるかという事を、実際に子育て広場に出向き目で見てきた中での気づきをも

とに、子育て冊子（食事・排泄などについて）に新たに手を加え配付するなどの活動・研究を行った。保育士会だけでなく、市の「子ども子育て支援事業計画」とも連携し、タックを組みながら進めている。子育て支援センターについては「初めての所には行きにくい」「保護者同士の交流は少ない」など、多くの課題を抱えていることが分かった。逆に携帯アプリを利用し、保護者が知りたいことをピンポイントで検索でき、ネットを通して悩みを共有するほうが気持ち楽だと感じることも多い。冊子は子育て支援センターや小児科、保育園など子育て家庭が多くかわる機関の誰もが目の停められる場所に設置しているとのことである。助言者からは「今後は以前の冊子と変更した内容がどのように変わったかがわかるとよい。また、冊子まで作成したのであれば、もっと周りの市にもPRすることで参考になるのではないか。今後、必要な人がダウンロードして見られる環境が整うと幅広く浸透していく。研究を重ね、冊子に活かされてはいるが、まとめが入っていると内容がより深まる」というアドバイスがありました。

どちらの市の研究も、それぞれが現場の立場から話し合い、短期間にまとめたものだが、研究員たちには特に実り多い研究となった様です。どちらの発表も関東ブロック大会に進みます。

〈小田原市子育て冊子〉



# 第六三回 関東ブロック保育研究大会



第六三回関東ブロック保育研究大会が「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」を目指してと題し、パシフィコ横浜にて、令和五年七月二六日(水)、二七日(木)に開催されました。令和五年はこども家庭庁が設立され、新たな法制度が加味された中で、こどもの権利や育ちの保障が求められることとなりました。今大会では、

- ・ 保育者は様々な保育に関わる制度の動向や保育に求められている責務について常に意識



し、認識を深め、保育の社会的な意義、役割を改めて意識してうえで日々の取り組みを充実させなければなりません。

- ・ 保育をめぐる情勢を踏まえ、すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現に向けた私たち保育者の姿勢を広く社会に発信できるような多様なテーマでの研究を深め先進的、効果的実践を学び合うことにより、保育、子育て支援の拡充につながる保育実践の質の向上を目指す事を目的として開催されました。

一日目は、横濱中華学院幼稚園の園児、横濱中華学院の学生による龍舞演技がオープニングを飾りました。二人は皆のために皆は一人のため」という龍舞の心が伝わる皆で力を合わせた舞が披露され、会場は感動でつつまれました。来賓の方の挨拶では、保育の現状における保育者たちへの労い、激励の言葉を頂いた後、基調講演、記念公演が行われました。

基調講演では、白梅学園大学名誉教授 武藤隆氏による「園の保育を通して子どもの権利を実現し、学びの基盤を育成する。」と題し、学びの基盤を育成するための保育環境やあそびのプロセスについてお話いただきました。記念講演では、ミュージシャン＆マジシャン＆翻訳家の大友剛氏による「マジックと音楽と絵本」子どもの世界を彩る3つの魔法」をテーマに、手作り楽器の紹介、演奏、絵本の朗読など、保育実践に役立つことを笑ったり癒されたり子どもだけでなく参加者の皆が3つの魔法にかかりながら学びました。

二日目は、〈第1分科会 新たな時代の保育実践〜すべて

の子どもにむけて〜〉・〈第2分科会 配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて〉・〈第3分科会 保育者の資質向上を図り、保育現場の魅力を発信する〉・〈第4分科会 地域の子育て家庭への支援実現に向けて〉・〈第5分科会 子どもにより良い育ちと安全・安心の環境づくりに向けた関係機関とのネットワーク〉・〈第6分科会 家庭や地域との連携による食育の推進〉・〈第7分科会 保育の社会化に向けて〜保育の営みをいかに社会に発信するか〜〉・〈第8分科会 公立保育園・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割〉・〈特別分科会 子どもと一緒に創るあそび歌〜大切なことは子どもが教えてくれる〜〉の8分科会において、それぞれのテーマに沿って研究発表会が県内の代表園により行われ、助言者の講師の先生方のお話を聞き、参加した皆さんは熱心に耳を傾け、質問する場面もあり学ぶことが多く有意義な時間となりました。

二日間にわたって開催された、第63回関東ブロック保育研究大会は「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」というテーマ



に沿って多面的な角度から学ぶ機会となりました。次回第六四回大会は、令和六年七月四日(木)〜五日(金)、新潟県の朱鷺メッセにて開催します。

【おまけ】神奈川県保育会では大会初日の二六日終了後、翌日の議長と発表者をお招きし、激励会を開催しました。



〈神奈川県Kのポーズ〉

# 県・市町児童福祉主管課長と 県保育会との連絡協議会



相馬正覚理事・総務委員長(二宮保育園・中郡)司会進行のもと、会議が行われました。

始めに、宮田丈乃副理事長(長井婦人会)子ども園・横須賀市)より開会のご挨拶があり、県組織による施設への各支援に対し感謝の意を述べられ、

令和五年七月十四日(金)十四時より横浜ホテル・プラムにて、県・市町村児童福祉主管課長と県保育会委員との連絡協議会が行われました。神奈川県より次世代育成課・課長深石薫氏、保育・待機児童対策グループ・グループリーダー渡邊友和氏、十三市町(横須賀市・平塚市・鎌倉市・藤沢市・小田原市・茅ヶ崎市・秦野市・厚木市・伊勢原市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町)より、課長・係長の皆さまにご出席いただき、

「組織推進の基本的な取り組みと考え方等の基調講演へと移りました。

## 第一部・連絡協議会では、

子ども家庭庁・成育局・保育政策課課長・本後健氏による基調講演が行われました。令和三年より子どもの視点に立つて、子どもを巡る様々な課題に適切に対応するための子ども政策の方向性について検討を行った「子ども政策の推進に係る有識者会議」の開催を初めに、令和四年に「子ども家庭庁設置法」・「子ども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律」・

「子ども基本法」の成立が行われ、二年間の検討のもと令和五年四月一日より子ども家庭庁の設置となった経緯を伺いました。概要説明より、

子ども家庭庁の内部組織が司令塔・育成・支援の三つの部門体制となり、各府省から移管される事務として、内閣府・子ども子育て本部が所掌する事務や厚労省・子ども家庭局が所掌する事務(婦人保護事業を除く)の保育関係施策は

も家庭庁で実施していくこととなった等の説明をいただきました。子どもまんなか広場(会議ができる場所)があり、

そこは子どもが遊べる場となっており、館内もオレンジの壁や床にし、子どもの絵を掲示できる場を設け、園と同じような環境を整えているとのことでした。子どもがどう思い・感じるのか、ということを考えながら子ども視点を大事にして取り組む内容となっているとのことでした。

続いて、令和五年度保育関係予算より当初予算4.8兆円に令和4年度第二次補正予算で前倒しで実施するもの等を含めると5.2兆円規模の予算となっているとのことでした。新規に「保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業」があり、本年度より全国三一の自治体が事業を行っていることや保育士の負担軽減のため配置基準やICT化等の補助、主任保育士専任加算等の要件についての特例の創設、送迎バスに関する安全管理、

保育施設における虐待等の不適切保育に係る対応について「不適切な保育」の考え方を明確化するため概要を整理し具体化していくこと、新型コロナウイルス感染症への対応として国として今後どのように対応していくか検討していくこと、待機児童新子育て安心プランについては地域により各自自治体がどのように取り組んでいくか等の内容が説明されました。そして、子ども政策の強化として子ども未来戦略方針については一歳児及び四・五歳児の職員配置基準の見直しや子ども誰でも通園制度(仮称)の創立、社会的擁護・障がい児・医療的ケア児等の支援基盤の充実とひとり親家庭の自立支援について等盛り込まれた内容の説明がされました。

これまでの内容を通し、質疑応答が行われました。

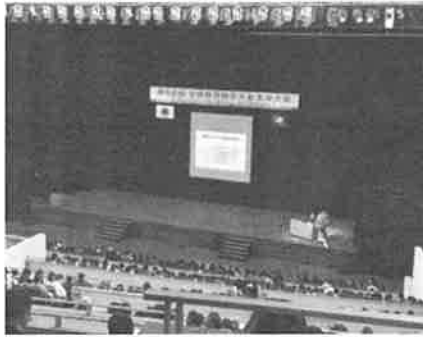
次に、意見交換会が行われ、県・市町村課長より順次コメントをいただき、委員との意見交換を行いました。

まとめ・総括として、伊澤昭治副理事長(五反田保育園・藤沢市)より、今の現状として、こども家庭庁の施策具体化のために県・自治体と協力した中でどのように施策に取り組んでいくのか考え、保育を担う保育士の養成の現状として保育の担い手が減少していることへの取り組みを県・自治体とともに真剣に取り組んでいくことの必要性や定員増減に対し柔軟な対応について、「こどもまんなか」の趣旨のとおり子どもが充実できるよう現場も対応していくことに努め、県や自治体との協力が体制が必要であることを願う閉会となりました。

第二部の情報交換・懇親会では、最初に藤田副理事長より開会の挨拶がありました。その後、神奈川県次世代育成課長の深石様、横須賀市子育て支援課長の有川様から激励のお言葉をいただき、行政と保育の連携をより強化していくことを確認しました。乾杯の挨拶では萩原顧問の「こどもまんなか社会になっていきます。これからは現場

の子どもたちの主体性をより尊重してほしい。その為には先生方が健康で元気に過ごして、目の前にいる子どもたちの手本となる存在でいてください。」というお言葉の後、乾杯のご発声で和やかに始まりました。温かい雰囲気の中で、参加者同士での親交を深めることができ、終焉を惜しまれる中、閉会となりました。

**第六回  
全国保育研究大会**



「frii」による弦楽四重奏でした。とても素敵な音色で聴いている人たちの心を癒してくれたように感じます。素晴らしい演奏の後は、大分県保育連合会によるPR動画を視聴しました。そこには大分県の魅力や現場で働いている保育士の姿などを観ることができ、素敵なお話でした。全ての内容が終わると会場全体から温かい拍手が沸き起こりました。

次はいよいよ式典・全体会です。最初に児童憲章の朗読、物故者への黙祷。次に主催者挨拶、佐藤樹一郎大分県知事をはじめとする来賓祝辞がありました。続いて表彰が行われ、全国保育協議会頭彰・全国保育協議会特別感謝・全国保育協議会会長表彰を全国であわせて二二二名の方が受賞されました。神奈川県からは六名の方が栄誉ある会長表彰を受け、その功績がたたえられました。式典の最後には大会宣言が読み上げられ、参加者の熱い拍手により採択されて式典が滞りなく終了。

その後は子ども家庭庁成育局保育政策課より「保育をめぐる国の動向と課題」と題しての行政説明があり、とても勉強になる良い機会でした。次

**保育の日前夜祭**

令和五年十一月三〇日(木) ホテルプラムにおいて、第四十四回「保育の日前夜祭」が開催されました。当日は、長年にわたり、子ども達の育成に多大の貢献をなされた受賞者の皆様をお招きし、県行政、保育関係者が一堂に会してお祝いをしました。また、日頃より保育の現場にて子ども達の成長を支えている皆様

の労をねぎらい今後も保育事業のより一層の進展に資することを確認しました。宮田副理事長の「開会のことば」に続き、山本理事長より受賞者の皆様にお祝いの言葉が述べられました。

☆ 神奈川県保育賞

- 令和五年度受賞者
- 横須賀市(太田和こども園) 岩崎 佳子様
- 開成町(酒田保育園) 木村 美晴様
- 秦野市(にこにこ保育園) 高野 恵美様
- 小田原市(春光保育園) 舘田 知佐様
- 愛川町(愛川町立中津南保育園) 吉田 美千代様



☆ 叙勲 瑞宝双光章

令和五年度受賞者

横須賀市(大楠愛児園)

佐藤 蘭子様



☆ 叙勲 旭日小綬章

神奈川県社会福祉協議会

会長 篠原 正治様



☆ 厚生労働大臣表彰

令和五年度受賞者

横須賀市(富士保育園)

久場 愛子様



☆ 全国保育協議会会長表彰

令和五年度受賞者

愛川町(中津南保育園)

本間 美帆様

開成町(酒田保育園)

木村 美晴様

座間市(わかば保育園)

柴田 弘美様

座間市(小松原保育園)

小西 宏美様

秦野市(にこにこ保育園)

高野 恵美様

秦野市(にこにこ保育園)

武藤 千春様

以上の皆様方受賞おめでとう  
ございます。心よりお祝い申し  
上げます。受賞者の方々からは  
受賞の喜びや現場の子ども達へ  
の思い等が伝わるご挨拶をいた  
だきました。ご臨席いただい  
た、神奈川県福祉子どもみらい  
部次世代育成課山崎副課長、神  
奈川県議会厚生常任委員会武田  
委員長、神奈川県児童福祉審議  
会小川委員長、神奈川県社会福  
祉夫人懇話会中川会長、神奈川  
県社会福祉協議会篠原会長、神  
奈川県ゆりの会内山会長からも  
お祝いや励ましの言葉を頂きま  
した。

式典後に行われたアトラク

ションでは、バイオリンニスト

の清岡優子氏 ピアニスト・

作曲家の徳永洋明氏による演

奏が披露されました。客席を

歩きながらのバイオリン演奏

等の演出もあり、本物の芸術

を目の前で体験することが出

来とても幸せな時間となりま

した。会場からも大きな拍手

が起き演奏会は終了。



懇親会は富田相談役の乾杯  
のご発声で和やかに始まり、  
温かい雰囲気の中、参加者同  
士での親交を深めることがで  
き、終焉を惜しまれる中、萩  
原顧問のお言葉をもって閉会  
しました。

### 保育のつどい

令和五年十二月二日(土)

神奈川県立音楽堂にて、第五

九回「神奈川県保育のつど

い」が開催されました。

第一部の記念式典では黒岩知

事より受賞者8名に賞が贈呈

され、保育賞にふさわしい華

やかな贈呈式となりました。

第二部の記念講演では「保

育士になる皆さんへ」という

題目で養成校より選ばれた代

表がインタビューとなり受

賞者の皆さんに質問するとい

う形式で行なわれました。



### 神奈川県保育会研修

令和五年度の神奈川県保

育会研修は、令和5年6月2

8日(水)より始まり、令和6

年2月16日(金)まで、全1

5講義を実施しました。

保育士キャリアアップ研修

では、マネジメント分野5

回、食育・アレルギー分野3

回、乳児保育分野4回開催。



その他、保育実践分野3回開  
催し、高評価でした。

◇神奈川県保育会の広報誌  
『保育かながわ』は、赤い羽  
根共同募金の助成金で発行し  
ています。